

<講演要旨> ※無断転載を禁じます

摂食・嚥下機能障害における基本的知識

—解剖・生理学的知識とは—

東京歯科大学解剖学講座

阿部 伸一

日常、何気なく行っている摂食・嚥下動作は、随意運動と不随意運動（嚥下反射）によりなされています。この動作は、口腔、咽頭、食道などの筋が神経を介して絶妙なタイミングで動くことによるものです。しかし、ひとたびタイミングにずれが生じると摂食・嚥下障害を惹起することとなります。高齢社会を迎えた現在、嚥下障害・誤嚥に起因する肺炎が問題となっています。

本講演では、「摂食・嚥下機能療法」を理解していくうえで、これらの舞台となる口腔・咽頭領域の解剖学的知識を神経機構との関連という観点から解説します。すなわちどこにどのような筋肉があるのかだけでなく（単なる解剖）、機能した際どのような役目をするのかについて（機能解剖）理解していただきたいと思うのです。講演の間に無理なく記憶できる必要最低限の知識を提示します。これらの知識を持てば、その障害が、どこに、なぜ起こるのか？そしてどのようにしていけばいいのかについて、より深い理解をもって考えることができるようになりますと確信しています。

阿部 伸一（あべ しんいち）

略 歴

- 1983年 芝高等学校卒業
- 1989年 東京歯科大学卒業
- 1993年 東京歯科大学大学院終了（歯学博士）
- 1994年 ドイツベルリン自由大学留学
- 2008年 台北医学大学口腔医学院（台湾）臨床教授（現在）
- 2010年 東京歯科大学解剖学講座教授（現在）
- 2012年 延世大学歯学部（韓国）客員教授（現在）

学会活動など

- 歯科基礎医学会評議員
- 日本解剖学会学術評議員
- 口腔インプラント基礎系指導医（日本口腔インプラント学会）
- 日本口腔インプラント学会代議員
- 日本顎咬合学会評議員
- 他

研究専門分野

咀嚼嚥下機能向上時にみられる抗加齢現象に関する細胞生物学的研究

著 書

- 「口腔からウエルエイジング」クインテッセンス、東京、2013.
- 「歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション」医歯薬出版、東京、2011.（分担執筆）
- （参照 <http://www.tdc.ac.jp/dept/anat/index.html>）